■朝倉宗滴(教景)　　**越前の戦国大名朝倉氏の家臣。傑物として，代々の当主を補佐し繁栄させたが，その死は，滅亡を招いた。**
あさくらそうてき(のりかげ)
応仁の乱終・1477＝　　**_越前国の守護大名朝倉孝景(先代)の末子八男に生まれる。諱は教景。**
仮名を父孝景と同じ小太郎と称し，諱も，曽祖父教景，祖父家景及び父孝景が一時的に名乗っていたことから，嫡男として遇されていたようであるが，

兼良+一休没 1481＝ 4歳：父孝景が死去した時には，年少過ぎたため，兄の氏景が家督を継ぐ。父の弟朝倉光玖が後見している。

仏門に入り，宗滴沙弥と号して，本郷竜興寺に遁世していたが，

太田道灌暗殺1486＝ **9歳：**氏景が死去し，朝倉貞景が家督を継いで当主になると，

足利義政没・1490＝13歳：

・・・・・・1494＝17歳：**_豊原寺に初陣，**
早雲小田原城1495**＝18歳：_柳ヶ瀬に出陣するも，合戦無し。**

敦賀城主朝倉景豊の妹を室に迎えていたことから，

・・・・・・1503＝26歳：***朝倉景豊や朝倉元景らが謀叛を起こそうとしているのを察知し，当主(氏景の子)貞景に密告し，敦賀城を攻撃。景豊は自害を命じられ，この功により，金ヶ崎城主として敦賀郡司に就き，以後，一族の重鎮として，兄氏景系統の朝倉家当主を支え，軍務を取り仕切ることとなる。**
・・・・・・1504**＝27歳：**
・・・・・・1506＝29歳：**_父孝景の妾腹の元景が，一向一揆の支援を受けて，越前に侵攻，激戦ののち勝利(九頭竜川の戦い)。**
細川政元殺害1507＝30歳：**_合戦。**

早雲相模城・1512＝35歳：貞景が死去し，孝景が家督を継いで当主になると，これを補佐。
・・・・・・1513**＝36歳：**

義興遣明船・1516＝39歳：連歌師宗長を招き，気比社造営の無事を祈願して，法楽連歌を張行。
・・・・・・1517＝40歳：幕命で，**_若狭守護武田氏の援軍として，若狭・丹後に出陣し，反乱を鎮圧。**
義興周防帰国1518＝41歳：

・・・・・・1522**＝45歳：**

・・・・・・1525＝48歳：孝景が，六角氏に攻められた浅井氏から救援を求められると，**_近江小谷城へ出陣し，六角氏と浅井氏の間を調停。浅井亮政をよく助けたため，以後，朝倉・浅井家は固い絆で結ばれる。**
・・・・・・1527＝50歳：**_近江に逃れていた12代将軍足利義晴と管領細川高国の要請で上洛し，三好勢らとの諸戦で勝利，**
大内義興没・1528＝51歳：**_高国と対立し，京都から撤退するが，これらの活躍で，朝倉氏の中央での発言力を確固たるものとする。**
天王寺合戦・1531**＝54歳：*養子の朝倉景紀に敦賀郡司の職を譲るも，軍奉行は引き続き務め，加賀の内紛(享禄の錯乱)に乗じて，能登畠山氏と共に加賀に出陣するが，途中で能登側の軍が壊滅したため，撤退。**
大和一向一揆1532＝55歳：この年死去した連歌師宗長とは，諸国の動静を知ることもあって，深く親交した。

・・・・・・1540**＝63歳：**

鉄砲伝来・・1543＝66歳：
・・・・・・1544＝67歳：***美濃国支配を画策する執権斎藤道三を取り除こうと，土岐頼芸から援軍を求められ，稲葉山城下を焼き払って撤兵するも，道三に夜襲を掛けられ1万以上の死者を出して退却(加納口の戦い)。**

上杉謙信登場1548＝71歳：孝景が死去し，若年の義景が宗家当主になったのにも，これを補佐。
ザビエル来日1549**＝72歳：**

大友布教許可1552＝75歳：義景が馬を購入しようとした際には，その便宜を図っている。

大陸邦民事件1555＝78歳：***越後上杉氏の長尾景虎に呼応して，加賀一向一揆を討つべく加賀に出陣するが，陣中で病に倒れ，一族の朝倉景隆に総大将と朝倉軍を任せて一乗谷に帰還，手厚い看病を受けるも，没した。生涯12回の戦の最後になったが，天下に知られた名将であったことは，川中島の戦いが和睦になったことに示され，軍師を失った朝倉氏は，滅亡への道を辿ることになった。**
先代の孝景が子の氏景のために書き置いたとされる「朝倉孝景条々(従来十七ヵ条とされていた)」は，合理主義的な考え方をよく表れていて，孝景が，いかに領国経営に苦心していたかがわかり，最古の分国法といわれてきたが，孝景後の話も多く乗せられており，朝倉教景宗滴が，孝景の子孫への覚えとして物語ったものを，家臣が書き留めたものという。「朝倉宗滴話記」にも，末子ながら孝景の子であった誇りが伺える。

松原信之「朝倉氏と戦国村一乗谷」，Wikipedia，